

平成 27 年 4 月吉日

ロータリークラブ卓話要旨

演題

スポーツと礼儀で子供は変わる 礼儀正しさの DNA は残っている、マナーキッズプロジェクト 12 万人の軌跡

公益社団法人マナーキッズ®プロジェクト

理事長 田中日出男

本日は、ロータリークラブにおいて卓話の機会を頂戴し、誠にありがとうございます。

1 マナーキッズプロジェクトの経緯

(1) 平成 8 年 早稲田大学庭球部小学生テニス教室が原点

何故、マナーキッズプロジェクトをスタートさせたかですが、平成 8 年頃、会社勤めをしておりましたが、人事労務の仕事をしていました関係から、従業員同士が挨拶しなくなった事に問題意識を持ち、「挨拶運動」を始めました。「挨拶通り」を作り、そこでは「明るく、いきいき、さわやかに、常に挨拶しよう」と、幼稚園でやるようなことを会社でやる必要がありました。どうしてかなあと思っておりましたところ、近くの小学校の校門で、先生と生徒が挨拶をせずに校門に入る姿を目撃しまして、小学校で挨拶する習慣がないのが原因ではないかと思いました。そこで、母校の早稲田大学テニス部 OB に働きかけ、早稲田大学庭球部小学生テニス教室を開始したのがきっかけです。

平成 13 年早稲田大学テニス部の安原美里さんが、補助員としての体験から「早稲田大学庭球部小学生テニス教室」を卒業論文のテーマに取り上げています。

この卒業論文の持つ意味・意義は非常に大きいと思っています。これを糧にして、のちほど、財団法人日本テニス協会幼稚園・小学校マナーキッズテニスプロジェクトに繋がったからです。

(2) マナーキッズと小笠原流礼法との接点、前田利祐氏との出会い

マナーキッズテニス教室を開催していて、多くの方々から、「どうしてテニスと小笠原流礼法が結びついたのか」という質問を受けます。そのいきさつをお話します。

マナーキッズプロジェクトは、いろいろな方々との偶然の出会いで成り立っているといっても過言ではありません。

私は、昭和 38 年 4 月に三菱化成株式会社（現三菱化学株式会社）に入社し、爾来黒崎工場、四日市工場、本社人事部、水島工場、関西熱化学総務部、三菱モンサント化成筑波

工場と一貫して人事・労務の仕事に従事してきました。

そのまま人事・労務関係で会社生活を終えると思っておりました時に、まさに青天の霹靂で、平成4年(1992年)6月26日に三菱化成九州支店長を拝命しました。営業の第一線です。三菱グループの九州支店長の会に「福金会」という会があります。その関係で前田家18代当主である前田利祐氏とお目にかかる機会がありました。その方の姿勢が、いかなる場面においてもものすごくいいのです。お酒を飲むと私どもは姿勢がどうしても崩れますが、前田利祐氏は絶えず背筋が真っ直ぐ崩れず、立ち居振る舞いが非常に美しいのです。

私は前田利祐氏に、早稲田大学庭球部小学生テニス教室で礼儀、挨拶の仕方を教えていただきたいとお願いしました。ご快諾をいただき、平成14年11月16日(土)の第18回小学生テニス教室からご指導いただきました。そうすると、子どもの反応が全然違うのです。

そして、後述の、日本テニス協会のマナーキッズテニス教室を始めるにあたって、引き続き礼法指導をお願いしました。しかし、前田利祐氏は「私は礼法の専門家ではないから」ということで、小笠原流礼法鈴木万亀子総師範をご紹介いただきました。それが鈴木万亀子総師範との出逢いです。

前田利祐氏、鈴木万亀子総師範との出逢いがなかったら、マナーキッズプロジェクトは、存在していなかったと思います。

(3) 財団法人日本テニス協会「幼稚園・小学校マナーキッズテニスプロジェクト」設立の経緯

会社をリタイア後、平成15年に財団法人日本テニス協会のベテランテニス改革のボランティア活動をすることになり、それがご縁でマナーキッズテニス教室の実験を平成16年7月、東京都中央区において行うことになりました。7月24日NHKのサタデースポーツ、7月25日(日)NHK朝のニュースで教室の様子が全国に放映されました。

これが、マナーキッズプロジェクトのターニングポイントとなりました。

平成17年4月1日、普及指導本部普及委員会内「幼稚園・小学校マナーキッズテニスプロジェクト」が正式に発足しました。

(4) NPO法人マナーキッズプロジェクト設立の経緯

テニスと小笠原礼法のコラボレーションで子どもが変わるという確信を持ち、これをテニスだけに留めておくのはもったいないと考えました。そこでテニス協会として、サッカー協会などいろいろなところにアプローチしましたが、うまくいかないと感じていました。

平成18年11月29日NHK解説主幹の山本浩氏(現法政大学スポーツ健康学部教授)にお会いしました。その時に山本氏から、「マナーキッズの内容を他のスポーツに拡げたいのであれば、財団法人テニス協会でやるよりも、ニュートラルな組織であるNPO法人を設立した方がいいのではないか」との助言をいただきました。その当時、NPO法人のことは、全く眼中になかったので、山本氏のご助言がなかったら、今のマナーキッズプ

プロジェクトはなかったのではないかと思います。

(4) 平成26年10月 公益社団法人マナーキッズプロジェクト

平成26年10月に認定NPO法人から公益社団法人マナーキッズプロジェクトに移行します。

(5) 今までの参加人員他

今までに47都道府県において、1,000回以上開催し、125,000人を超える幼稚園・保育園園児、小学校児童が参加しております。また、34都道府県において310小学校、幼稚園・保育園の授業に採用されております。

2 マナーキッズプロジェクトの内容

(1) 小笠原流礼法鈴木万亀子総師範による正しい姿勢、お辞儀、挨拶の指導

マナーキッズ教室の内容ですが、初めに生徒に自己紹介をしてもらいます。全国どこでもそうですが、姿勢は悪く、小さい声で自己紹介します。その後、小笠原流礼法鈴木万亀子総師範が正しい姿勢、お辞儀・挨拶の仕方のご指導があります。姿勢を正して、お腹に力を入れて、胸にいっぱい空気を入れて、「よろしくお願いします」と言ってからお辞儀をします。お辞儀は、頭を下げるのではなく。腰を折って、心を下げます。お辞儀が終わったら、やさしい顔で相手の顔を見ます。これを残心といいます。指導してもらったら、同様な方法で「ありがとうございました」を言ってからお辞儀をします。

(2) マナーキッズショートテニス教室、マナーキッズスポーツ教室

鈴木万亀子総師範からご指導があった正しい姿勢、お辞儀・挨拶の仕方をショートテニスをやりながら2時限(90分)の間、「よろしくお願いします」「ありがとうございました」と繰り返し「あいさつ」の練習を行います。子どもは10分毎に、姿勢がよくなり、声も大きくなり、変化していきます。

終わる頃には、親が自分の子供かと思える程、姿勢が良くなって、声も大きくなります。子供は、教えると変わることが出来る、また、礼儀正しさのDNAはまだ残っていると確信しております。

(3) マナーキッズ体幹遊び

2020 東京オリンピック・パラリンピックまでの間にマナーキッズの精神を全国津々浦々に浸透させるためには、新たな仕掛け・仕組み作りが必要です。「マナーキッズ」調べのシステム化(園児、児童が記入した帳票から、個人報告書及び団体報告書を作成するシステム)が平成26年8月に完成したのを契機に、次の通り、テニスに限定せず、日常の学校生活において正しい姿勢を身に付けるマナーキッズ体幹遊びを新規導入しております。

一 2時限と3時限の休み時間の10分間に、全校児童対象に専門家による、「正しい姿勢」「お辞儀・挨拶」指導

二 先生へのマナーキッズ体幹遊び指導要領・フォロー要領の説明

学校生活において、正しい姿勢を身に付けるために体幹を鍛える方法の指導とフォロー要領の説明を行います。

三「正しい姿勢」を身に付けさせるために体幹を鍛える

東京都教職員研修センターと早稲田大学スポーツ科学学術院「子供の姿勢研究班」との連携による「子供の体幹を鍛える 正しい姿勢のもたらす教育的効果の検証」が発表されましたが、猫背傾向が改善された、姿勢の良い児童は、自己抑制（「嫌いなものでも我慢して食べます」、「飽きても宿題は最後までします」、「苦しいときでも我慢します」等）が高い傾向がある等の効果があることから、正しい姿勢を身に付けるために、早稲田大学スポーツ科学学術院「子供の姿勢研究班」の協力を得て、授業の始めと終わりの挨拶を通して体幹を鍛える。口学校生活（体育や保健体育の時間や休み時間等）において、身体活動量を増やして体幹を鍛える。八朝の会等での運動を通して体幹を鍛える。等体幹を鍛えるプログラムを導入しております。

（４）「マナーキッズ」調べによるフォロー

マナーキッズテニス教室を媒介とした体育・道徳融合授業を通じて、子供達は正しいお辞儀・挨拶ができるようになります。しかし、それが持続するかどうかは、家庭、学校でのフォローいかにかかっております。

そこで、家庭および学校でのフォローの一環としてマナーキッズカレンダーを作成しました（平成24年6月15日付でマナーキッズカレンダーが意匠登録を受領しました。図案はインパクト・コンサルティングの土谷理恵さんのアイデアによるものです）。

平成25年9月より、マナーキッズカレンダーを深化・発展させた「マナーキッズ」調べを開始しました。明石要一千葉大学名誉教授、鈴木万亀子小笠原流礼法総師範の監修により、幼児期、小学校期に身につけるべき、言葉、正しいお辞儀・挨拶、歩き方・姿勢、生活、社会規範を明確にし、それに向かって、本人、保護者、教師が一体になって取り組み、次代を担う子供たちが将来、世界各国の人々から尊敬される日本人になる一助にすることを目的にしております。

明石要一千葉大学名誉教授は、千葉敬愛短期大学学長、文部科学省中央教育審議会委員・文部科学省生涯学習分科会会長なども務められておられますが、平成25年4月より、早寝早起き朝ごはん全国協議会の事務局である独立行政法人国立青少年教育振興機構の顧問に就任されました（平成26年4月より、独立行政法人国立青少年教育振興教育研究センター長）。明石要一千葉大学名誉教授のアイデアにより、出来上がったもので、「早寝早起き朝ごはん」全国協議会とマナーキッズの協働版といえます。

幼稚園・保育園年長・年中・年少用、小学校1～4年生用、小学校5・6年生用の三種類の帳票があり、言葉編10項目、お辞儀・挨拶編10項目、歩き方・姿勢編10項目、生活編10項目、社会規範編10項目、合計5編50項目から成り立っております。

幼稚園・保育園用は、各5項目です。質問には、「はい」（2点）、「どちらともつかない」（1点）、「いいえ」（0点）の該当するところに印をつけます。各編で20点が満点、総合計で100点満点です。

園児・児童と保護者、先生が話し合いの結果、70点以上を初級、80点以上を中級、90点以上を上級、および100点満点は、100点満点賞として、表彰します。上記点数に達しない場合においても、20点以上向上した場合も表彰します。

年一回、10月に、東京において、「マナーキッズ」調べ表彰者発表会を開催しております。

マナーキッズ体幹遊び、「マナーキッズ」調べ及びマナーキッズ教室の三本の矢を通じ、園児・児童の規範意識を高めることにより、「いじめ」「学級崩壊」「小一プロブレム」解決の一助になることを期待しております。

(5) 保護者への講話

イ 鈴木総師範の講話「家庭内の躰」

マナーキッズ教室では、子供がプレーしている間に、保護者に対して小笠原流礼法鈴木万亀子総師範の講話があります。

まず、「朝起きて、誰が一番先に声をかけますか。」という質問を親にされます。殆どの場合お母さんが、「チャンおはよう、すぐに を用意しなさい。」とか言います。そうではなくて、挨拶というのは、目下から目上にするものですから、子供から「おはようございます。」と丁寧な言葉で言わせなさい。お母さんは、小さいお子さんであれば、料理等の仕事は止めて、子供の顔を見て、「おはよう」で返したいものです。

「朝に見て、昼には呼びて、夜触れて確かめおかねば、子は消ゆるもの」と昔の人は言っていたとのこと。

まず、朝は子供の顔を見て、調子を点検する必要があるという話をされます。

次に、「食卓では、子供の髪をさわらないこと。」という話をされます。今、電車の中で、食事をしたり、化粧をしたりする風景が当たり前になっておりますが、公的な空間と私的な空間の区別がつかなくなっている原因も、そういうところにあるようです。

また、子供を叱る際には、親は上座、子どもは下座ですれば効果があがるようです。

子供にとって母親は愛情、父親は尊敬の対象になるわけですから、「夫の悪口は言わないで。“遅いわね、何をしているのかしら”と言うなら“お父さん大変ね。こんなに遅くまで。私ならこんなに遅くまで働けないわ”と冒頭に言葉を添えて下さい。母の唇からは、美しい言葉以外発しない、と決心なさって下さい。そうすれば子供は父親を尊敬するようになります。」という話もされます。

更に、学校へ行く子を見送る時も、玄関を出て、見送ってあげて下さいと言われます。

5, 6歩歩いたところで、“行ってらっしゃい、気をつけて”と声をかける。子供は、まあ、あたたかいものを抱いて出かけ、一日中その気持ちが持続するというのです。そういう愛情豊かに育ったお子さんは、ストレスに強い、いじめにあっても耐えることが出来るとのこと。

ロ 目上、目下がない、みんながお友達・・・日本の教育現場

先程、鈴木総師範の、躰には、目上、目下の関係が欠かせないという話を紹介しました

が、東京都中央区立月島幼稚園でこういうことがありました。

園長先生が、マナーキッズ教室での園児の姿を見て、普段全く見せない表情だったとのこと。日本の幼稚園は全国全て、戦後、アメリカの教育理論を取り入れ、園長、先生と園児は対等、仲良くしましょうという路線で教育しているようです。マナーキッズは、そうではなく、園児は目下、従って目上の指導者に姿勢を正して挨拶するように指導します。その方が園児は正しい挨拶、礼儀作法を身につけるようです。「三つ子の魂、百まで」と言いますが、幼児での躰の重要性を痛感します。

八 筑波大学大学院大森 肇教授の講話「母の愛は脳を育む」「幼児期の言語機能に及ぼす模倣運動の影響」

鈴木総師範が、愛情豊かに育ったお子さんは、ストレスに強い、いじめにあっても耐えることが出来るとの話をされましたが、筑波大学大学院大森 肇教授（公益社団法人マナーキッズプロジェクト理事）によりますと、「母の愛は脳を育む」と述べられており、学術的にも証明されております。

ねずみの実験結果から、

幼少期に母親の十分な愛情を受けたネズミは、成長後に行動が落ち着き、過剰に攻撃したり怖がったりしなくなります。

また、ストレスを受けても、それに抗う力がつきます。

さらに、高齢期になっても、認知機能が低下しにくくなる。

と述べられております。

また、「幼児期の言語機能に及ぼす模倣運動の影響」という研究もされておられます。今の子供達は、部屋の中でゲーム遊びばかりで、時間、空間、仲間の三つの「間」がないことから運動の機会が減っているとされており。そのことから、体力・運動能力は低下の一途を辿っておりますが、それだけでは済まずに、言語機能、即ち知能にも影響があるとのこと。3才の保育園児に週3回、模倣運動（真似をすること）するグループとしないグループでは、言語機能の発達が違うとのこと。

従って、子供の体力・運動能力の低下に何としても歯止めをかける必要があります

（二）マナーキッズ大使の海外派遣

このプロジェクトでは、文部科学大臣杯マナーキッズショートテニス全国小学生団体戦を10回にわたって開催し、試合結果、マナー・ルールの順守度、感想文の内容、面接の結果を総合評価して、1大会4名程度の小学生を「マナーキッズ大使」として、平成22年まではイギリス・ウィンブルドン、平成23年からはアメリカ、ニューヨーク州フロストバレーのサマーキャンプに派遣、現地で国際交流活動を行っております。

試合に勝つだけでは、マナーキッズ大使には選ばれません。マナー、感想文に重きを、おいて選考します。文武両道でなくては駄目というメッセージです。

昨年からは、「マナーキッズ」調べ表彰者発表会からもマナーキッズ大使を選出しております。

3 日本の教育界の体質と風穴をあけるための試み

(1) 閉鎖的

しかし、マナーキッズ教室を小学校の授業として実施するのは、教育界の体質から考えてそう簡単なことではありません。平成20年9月15日(月)の日本教育新聞「私の主張」に私は、次のような記事を投稿しました。タイトルは「子供の可能性を引き出す」「各地のいい試みをまねしよう」です。

教育現場は、「いい試み」を取り入れようとする雰囲気は民間企業に比べて乏しいのではないかと痛感していた。民間企業であれば、どこかの会社が素晴らしい取組をすると、必死になって勉強し、まねをしてでも取り入れ、改革、改善をしている。そうしなければ、会社がつぶれる、生き残れないことを会社のトップ、従業員が肌で感じているからである。

事例発表者から返ってきた答えは、「困っていても情報交換しない体質がある」「悪い情報はすぐに伝わるが、いい情報は伝わりにくい」「いいことをまねすることに躊躇がある」「前年度のやり方を踏襲するのではなく、既成概念を打破しようと言っても、なかなかついてきてくれない」「成功例についての受け止め方に温度差がある」などであった。

果たして、学校、保護者、地域社会が一体となって、子供の素晴らしい可能性を开花させようとしているのかどうか。子供は、言葉に出して言わないが、「可能性を引き出してよ」と悲鳴を上げているのではないのでしょうか。

全国各地で実施されている「いい試み」を学び、まねをする勇気をお互い持とうではありませんか。

子供は国の宝です。早くアクションをおこさないと間に合いません。「子供は教えれば変わります。礼儀正しさのDNAは残っています。」今がラストチャンスです。

ラストチャンスということについて触れます。

私は敗戦の時、五歳でしたが、我々の世代と、敗戦の時に四年生以上の先輩達とは、人生観とか考え方が少し違うのではないかと考えています。その世代の方が、国のことを憂う度合いが強いのと思っています。マナーキッズに対して、その世代の方々から多くのご支援をいただいております。その世代の方々がお元気な間になんとかしなければという思いです。

世代が若くなるにつれて、日本人はこんなはずではないという思いが薄れていくのではないかと思います。マナーの悪い状態に対して不思議に思わなくなる可能性も否定できません。

(2) 品川区が全国で初めて予算化、北九州市、墨田区、倉敷市、北海道恵庭市、当別町、高知県香南市他に波及・・・時間がかかる

マナーキッズショートテニス教室を媒介とした体育・道徳融合授業は、34都道府県において310小学校・幼稚園で採用されております。平成22年度全国で初めて品川区が予算化しました。若月教育長が「市民科」授業として取り入れた理由として次のように述べられております。

「今のマナーの悪さの根本原因は、戦後一貫して取り進めてきた我が国の教育方針に根ざすものと言えます。」

「日本の教育学の歴史を考えると、どうしてもドイツなどの観念論が日本には入ってきました。その影響が強いのか、非常に形而上学的なのです。要するに観念的であり抽象論的であり、心構え論的なのです。教育にはいくつかの原理があります。その一つに「教育は他律による自律への促し」という原理があります。最終的には自律を目指すのです。すべからず全ての人間がその中で生きています。

今の現場の教員からは「他律」そのものにアレルギーを起こします。「子供の持っている可能性を・・・」すでに形而上学的なのです。「子供の意欲を大事にしよう」「子供の発想を大事にしよう」「子供の目線に立って」、これらは否定のしようがありません。

しかしそれに付随する具体的な戦略、方略、手段、方法を聞かれたとき、はたと現場は立ち止まってしまいます。そしてただ単に言葉のやり取りで終わってしまいます。その結果が今の子供たちの公共心の低下、道徳性の低下につながっているのです。

このことを全く意に返さないで相変わらず「命を大切にしよう」「思いやりを大事にしよう」など、この世の中に通用しないような物語の話しを子供たちに読ませる。それはそれで悪いとは言いませんが、重要なことはそれを実現させるにはどうすればいいかということです。

教育における他律による自律を考えたとき、マナーキッズの皆さんがやっておられるテニスならテニスを材料にしてマナーを教える、これはある意味では他律なのです。このような具体的な行動を通して子供たちにマナーや礼儀を自然な形で伝えていく、こういったものを基本に置かなければ、いくら尊く気高く美しく涙あふれるお話しを子供たちが教室で聞いても、何のリアリティーもありません。」

(3) 品川区立浜川小学校からの事例報告

品川区立浜川小学校から「規律正しい児童は学力も大きく向上する 「マナーキッズ」を「市民科授業」に取り入れて」と報告されております。

事例報告要旨は次の通りです。

学力向上の手立てとして、学習規律、生活規律の徹底。朝、昼の15分間の帯の時間や、パワーアップタイム(補修学習の時間)、習熟度学習の工夫。等さまざまな事柄に取り組んでいる。全校朝会や児童集会はもちろん、授業の最初と最後の挨拶でも、言葉を言う前から頭を下げた挨拶するという、マナーキッズで学んだ礼法を様々な場面で実践し定着を図っている。その結果、CRT(学力定着度調査)では、平成21年度と平成22年度のものを比較すると、21年度に実施していない1年生を除いた全学年で大きく向上している。

また、中学年以上の児童を対象に実施したアンケート調査の結果を分析したところ、学習規律や生活規律が定着していたり意識していたりしている児童は、そうでない児童よりも学力が向上していることが分かりました。

マナーキッズを通して、規律ある学習態度を身に付け、学力が向上することを期待しております。

(4) マナーキッズ親子でのひらテニス教室

平成24年5月から、マナーキッズ親子でのひらテニス教室を本格的に展開しております。

その理由の第一は、「三つ子の魂、百まで」「躰は3歳から8歳まで」と言われるように、躰は幼児期からするのが望ましいからです。「てのひらけっと」という発砲ウレタン製で、軽く、柔らかな素材で出来ており、安全で、幼稚園・保育園開催に適している素材がみつかりました。

第二の理由は、幼稚園・保育園では、保護者の参加数が多いことです。保護者を指導者に活用すると同時に、保護者は「家庭内の躰」を聴講します。

幼稚園・保育園の園児に対する接し方は、園長、教諭、保育士対園児が友達関係である現状に一石を投じることが期待されます。また、小学校入学後の子供達が学校生活に適応できず、授業が困難になる「小1プロブレム」対策の一方策になりうると考えております。

(5) 東日本大震災被災地でのマナーキッズ教室の開催

平成23年6月26日(日)に仙台市の避難所においてマナーキッズテニス教室を開催しました。

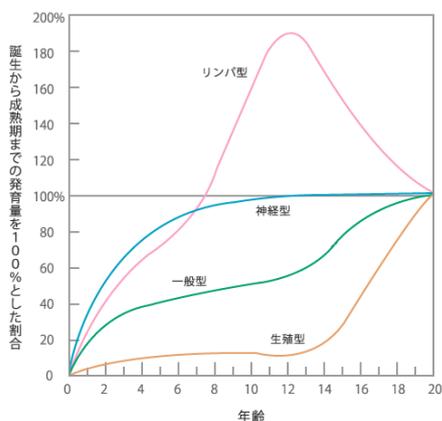
仮設住宅にショートテニス用具を寄付し、仮設住宅にお住まいの方々に「体」を動かすきっかけにして頂きます。また、近くの幼稚園、小学校において開催するマナーキッズテニス教室に指導者としてご参画頂き、子供達と一緒にショートテニスを楽しみながら「精神」を動かして頂きます。

今後は、福島県の幼稚園・保育園、小学校での開催に注力したいと考えております。というますのは、コラボしている一般社団法人地球の楽好から次のような報告書を頂きました。

福島県の各地域では、様々な問題から子供の屋外活動が以前のように自由に行えなくなっています。

震災から丸4年が経過し、福島県内各地の幼稚園・保育所・学童施設を訪問している中で「神経系の発達・発育」の問題がより顕著になってきていのを痛切に感じております。

図 スキャモンの成長曲線 図1



小学生の低学年まではプレ・ゴールデンエイジ、高学年はゴールデンエイジと呼ばれています。神経系統は5歳ころまで80%の成長を遂げ、12歳で90%以上になります。そして、神経系は一度形成されると消えることはほとんどありません。(図1) 一度自転車に乗れるようになるといつでもスムーズに乗ることができるのもこのことからです。

この時期は、さまざまな神経回路が形成されていく一生に一度の貴重な時期と言えます。それと同時に自分の身体をコントロールする「コツ」、つまり上手に操縦する術を身に付ける時期でもあります。このプログラムは、一生に一度だけのこの時期に、多彩な運動遊びを通じ子ども達の身体が求める様々な刺激を与え神経系の発達と身体の方法を習得するものです。

コーディネーションは、外遊びや自然体験遊びなどの、いわゆる「昔遊び」で自然と身に着いたものです。例えば、「ゴムとび」「ケンケンパ」では、ジャンプした時の空間姿勢制御、跳ね方、バランスなどが身に付き、「缶けり」も身体を適切に素早く動かし、「だるまさんがころんだ」では反応・姿勢制御などなど、挙げたらきりがありません。

【調査 1】

カラダの楽好・スタッフ聞き取り調査(重複回答・類似回答は一つに集約)

カラダの楽好・実施スタッフが幼稚園・保育園・学童クラブを訪問した際に保育従事者・教育従事者に対面聞き取り

(1) 震災前の子供達の身体の様子と違うところは見受けられるか

- ・動作が遅い
- ・注意力が散漫
- ・急に大きい声を出す、気に食わないことがあると暴れる子供が多くなった。
- ・運動会の練習も通じ転ぶ子供が極端に多い(特に今年の一年生)
- ・グランド一周できない子供が多い
- ・コップの水などをよくこぼす
- ・あちこちよくぶつける
- ・廊下のフックに道具袋をかけられない子供が多い

(2) カラダの楽好に参加(見て)しての感想

- ・片足立ちできない子供が多いのにびっくりした
- ・見たことが真似できない子供が多いのに焦りを感じた
- ・手を前と後ろ交互に拍手できない子供が多いのはショック
- ・ボールを真上に投げることができない子供が多い
- ・ものの力加減が調整できていないと感じた

- ・距離がつかめていないと感じた
- ・弱くとか強く、早くとか遅くのか加減ができていないのはなぜなのか
- ・ボールを使った動作では脳から手や足へ全身への神経が繋がっていないのではないかと不安になった。

(3) その他（振り返りの時間んで出た言葉）

- ・感情も身体も自分でコントロールできていない、できないとすぐあきらめてしまう子が多い
- ・運動会のリレー、徒競走で負けていると途中で走るのをやめてしまう子が多い、何をやってもすぐ飽きる
- ・ケンカしても加減がわからず全力で叩いたり蹴ったりする
- ・立ってられない、ふらふらする、座ってられない、すぐ寝ころぶ（身体のバランスが取れていない気がする）

【調査 2】スタッフミーティングにて神経系の問題として大きく三つに分類

- 1 うまく身体を操縦できない
（カラダの可動域が狭く動かせる範囲が小さい）
- 2 それぞれの感覚（見る・触る・聞くなどを行動に移せない）が統合されていない
（自分のバランスが取れていないことが気づけない）
- 3 空間認識ができていない（自分の位置・物との距離・方向が感覚としてつかめていない）

福島地域の子供たちには以上のような課題が見受けられています。

（6）中学校での指導

全国どこでも中学生のマナー指導にご苦労されております。

校長先生が演壇に立っても生徒は座ったままです。話を聞いていない生徒も多い。女子中学生の中には股を開いて座っているものもありました。中学生はある意味ですでに大人の領域に入っています。彼らにどのようにマナーを教えるのかを考えておりました。

品川区の7年生対象に2校開催しました。一校は、何をいっても言うことを聞いてくれません。一列に並ばせるだけで5分位かかります。中学生には、マナーキッズは効果ないのではとあきらめておりました。もう一校はきちんとするのです。そこでは、小学校の時にマナーキッズテニス教室を体験していたのです。幼稚園・小学校と逐次マナーキッズ教室を授業として取り入れて行けば、中学生になった時点で変化していると期待しております。

（7）学生の参画を呼びかける

現在の運営主体は、シニア中心ですが、次世代育成の観点から、小学校・幼稚園教諭、保育園保育士志望の学生を中心に学生の参加を呼びかけます。早稲田大学スポーツ科学学術院

では、マナーキッズ教室参加の学生に単位を付与することになりましたが、その輪が広がることを期待しております。

(8) ヘルス&マナーコミュニティ活動

子供は「教えれば変わる」「教えれば挨拶ができるようになる」「礼儀正しさのDNAは残っている」と確信しております。課題は、それが持続できるよう、家庭・学校・地域社会でのフォローが不可欠です。当公益社団法人は、「ヘルス&マナーコミュニティ」で商標登録を取得しました。町をあげて「挨拶運動」(大都市では中学校学区の全小学校、全幼稚園他)で展開するモデル市町村を募集しております。

イ キャッチフレーズ(住民から公募)

例「思いやりの心を世界に発信」 、「例「おもてなしの心を世界に発信」

例「挨拶が飛び交う健康タウン」 、「例「 から日本の思いやり(おもてなし)の心を世界に発信」

運動の柱は「挨拶運動」「クリーン作戦」「交通マナー向上」「体力増強運動」「町ぐるみ減塩運動」「コミュニティ活性」他

ロ コンセプト

・子供の変わる姿を見て、家庭、学校、地域が変わるプロジェクト・マナーキッズ教室指導者に親、シニア世代が参画することによる世代間交流・住民主体参画のプロジェクトにする

ハ 展開方法

・一中学校区においてモデルを作る。横展開。・ 市が音頭をとる。・公益社団法人マナーキッズプロジェクト 支部を設立し、 市と連携して取り組む
・協力要請団体

自治会長会、民生児童委員協議会、社会福祉協議会、老人会、交通安全協会、消防団、保護司会、更生保護会、公民館、PTA、子ども会、スポーツ少年団、児童館、学童保育、学校評議員会、商店会、ロータリー、ライオンズ、青年会議所、法人会、企業、企業OB、駐在所、各スポーツ団体

ニ アクションプラン事例

第一段階

幼稚園・小学校・中学校におけるマナーキッズショートテニス教室の開催

第二段階

総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、文化行事におけるマナーコミュニティ教室開催

第三段階

小学校諸活動の支援・協働体制の確立

キッズ活動部門・・・図書館部会・読み聞かせボランティア、放課後 教室・伝統文化、土曜学級・スポーツクラブ

地域の底力部門・・・自然環境・育成活動、地域パトロール・同窓会、おやじの会・P
TAサークル

学力サポート部門・・・ボランティア

第四段階

テーマごとの作戦展開（第一～第三同時並行可）

清掃活動、体力増強運動、町ぐるみ減塩運動、クリーン作戦、資源回収作戦、交通
マナー向上作戦

五 効果測定（ヘルス&マナーコミュニティ指標）

マナー・・・挨拶の質、量・交通事故件数・ゴミ収集ルール遵守度

ヘルス・・・体力測定・QOL評価・病欠日数

コミュニティ活性・・・愛着度・地域イメージ・環境負荷数値の減少

早稲田大学スポーツ科学学術院木村和彦教授、筑波大学大学院人間総合科学研究科大森肇
教授に研究委託

3 ロータリークラブ皆様へのお願い

（1）小学校、幼稚園・保育園での展開にご尽力を

国際ロータリークラブ第2590地区（横浜、川崎地区）第1グループにおいては、ロータ
リークラブの全面協力のお陰で、川崎市立日吉小学校、宮前小学校、旭町小学校、夢見ヶ崎
小学校、川崎小学校の5小学校で体育・道徳融合授業の支援事業を行いました。

全国に、その輪を拡げて頂きたいと思います。

といたしますのは、学校というのは、保守的な体質があるようで、なかなか新しいことに取
り組むことに躊躇があるようです。民間会社なら、どこかで優れた手法が開発されれば、
真剣に真似をすべく勉強しますが、学校は、“いいこと”を真似することに躊躇する体質が
あるようで、なかなか“いいこと”が伝播しません。

ロータリークラブのメンバーは当該地区で影響力のある方ばかりです。そういう方のご
助言があれば、学校側は受け入れ易いようです。皆様方のご尽力により、小学校、幼稚園・
保育園における開催を切望します。

ロータリアンの方々が近くの幼稚園・小学校に出向いてマナーキッズ教室の指導者、運営
者として汗をかいて欲しいと思います。

（2）ご寄付・ご支援のお願い

本プロジェクトは、全て企業・個人よりの寄付金及び正会員・賛助会員の会費で運営し
ております。年間約2,600万円です。公益社団法人移行を機に、マナーキッズプロジェク
トに対する認知度が高まることにより、支援者を増やし、財政基盤を強固にし、小学校、
幼稚園・保育園等における授業採用数を増やす等マナーキッズの輪を拡げたいと考えてお
ります。是非、ロータリークラブのご支援と皆様方の法人・個人正会員・法人・個人賛助
会員のご入会とご寄附をお願いします。

平成23年度の税制改正により、個人寄付の場合、寄付金から2,000円を差し引いた額

の所得税で40%が、住民税で10%が税額控除（都道府県と市町村双方が指定した場合）されることになりました。

先般ファンドレイジングの講演会がありました。ユニセフとか難民支援等に随分多額の寄付が集まっておりますが、それも非常に大事とは思いますが、我が国の次世代を担う子どもが病んでおります。遺言、相続、香典含めて次世代の健全育成のためにご支援賜れば幸いです。寄付金は相続税が免除されます。

マナーキッズ・ウイル・プロジェクトを立ち上げました。元全日本テニス女子チャンピオンの宮城黎子さんは、86歳でお亡くなりましたが、遺言でマナーキッズプロジェクトに多額のご寄付を頂戴しました。サインとメッセージの入ったミニチュアボールを作成し、1個400円以上のご寄付を募集しております。（本日ミニチュアボールを持ってきております。お孫さんのお土産にご寄付頂ければ幸甚です。）第2・第3の宮城黎子さんが出ることを期待してのプロジェクトです。

また、マナーキッズポイントカードを発行しております。失効ポイントが公益社団法人に寄付されます。人形町で3店舗加盟しました。お知り合いの店舗をご紹介賜れば幸甚です。

（3）終わりに

我々の活動は、「太平洋のゴミ拾い」と言われておりますが、「琵琶湖のゴミ拾い」になるためには、もっとマナーに対する「国民的関心」を呼び起こすことも欠かせません。そのためにも、マナーキッズが全スポーツ、文化活動に行き渡る必要があります。

かつて我が国を訪れた世界各国の人々は日本人の礼儀正しさ、立ち居振舞いの素晴らしさに感嘆の声をあげたとのこと。何故、このように変ってしまったのでしょうか。

ここ百数十年の間に、3回、即ち、明治維新、敗戦、そしてバブル期、日本の伝統的な良さをなくしてしまった当然の帰結という見方もあります。百数十年の間に3回もその国の良さをなくしてしまった国は他にないようです。

また、戦後の民主主義の教育を受けた世代があらゆる分野、あらゆる所において指導的役割を担う時代を迎えておりますが、子供の幼児期、児童期に「躰」「基本的マナー」という大事なことに家庭、幼稚園、学校、そして地域社会が戦後以来ずっとなおざりにしてきたこともマナーの乱れの一因ではないでしょうか。

日本の伝統的な良さを否定した「つけ」がまさにきているわけで、並大抵ではありませんが、スポーツ、文化などいろんなところで種を蒔き、マナーに対して関心を持つ。マナーキッズを通じて子供が変わる、変わった子供の姿を見て、指導者のシニア、学生も変わる、保護者、先生も変わる、コミュニティも変わる、時間はかかりますが、実行すれば人は必ず変わると確信しております。

マナーキッズプロジェクトの特徴は、スポーツ・文化活動と小笠原流礼法とのコラボレーションにあります。平成18年6月にマナーキッズ大使ウィンブルドン遠征に同行した際に、イギリスの方から、「子供のマナーの低下は各国共通の課題である。地域共同体の崩

壊、宗教の影響力の低下等が原因のようです。

日本は700年以上も小笠原流礼法が続いていることに驚く。また、スポーツと小笠原流礼法との連携により、子供の規範意識を植え付ける試みは素晴らしい。」とのコメントを頂戴しました。

また、平成26年5月、タイ地上波公共放送局が墨田区おもてなしの心を持った子供を育てる人材育成事業の水神保育園マナーキッズ親子でのひら教室取材しました。取材の趣旨は、次のように記されております。

「礼儀という誇るべき文化が崩壊していると叫ばれている今の日本で、礼儀を徹底的に指導する団体の公益社団法人マナーキッズプロジェクトが行っている、小学校他に赴いてスポーツ・文化活動を通じ、日本の伝統的な礼法を体験し、体・徳・知 バランスのよい子供を育てる活動をされている様子に感銘を受け、タイ国民に紹介したいと強く思いました。子供達は楽しみながら礼儀を学んでいます。幼少期に行儀や躰、挨拶といったことをしっかり身につけておくことは、子供達の未来の為に必要不可欠であることが分かります。日本人の品格の源を取材させて頂ければ幸いです。」

礼節を重んじるイギリスおよびタイの両国から小笠原流礼法とスポーツの協働に関心が示されたように、日本の伝統的な礼法が存続していることにもっと自信と誇りを持っていいのではないかと思います。

「2020年東京オリンピック・パラリンピック」が決定し、「おもてなし」という言葉が全国各地に広がっております。「おもてなし」とは、「訪れる人を慈しみ、見返りを求めない深い意味がある。祖先からずっと受け継いできたこの心で皆様を温かく迎えたい」とのことです。「おもてなし」は「マナーキッズ」に通じると思っています。東京オリンピック・パラリンピックを契機にソフトレガシーの構築が検討されております。その一つに「一校一交流運動」(公共施設を拠点とした地域課題解決と交流促進事業)があります。我々は、「ヘルス&マナーコミュニティ」という商標登録を取っており、それとリンクさせたいと考えております。

是非、ロータリークラブの皆様が全国において主導的な役割を担って頂きたいと思いません。

何卒よろしく願いいたします。ありがとうございました。